



# としょかんだより

令和7年1月

第8号

牡丹山小学校図書館



## 2025年は「へび年」

今年（ことし）は「へび年（とし）」です。「巳（へび・み）」は十二支（じゅうにし）の中で6番目（ばんめ）の干支（えと）です。

「努力（どりよく）を重ね（かさ）、物事（ものごと）を安定（あんてい）させていく」という意味（いみ）を持つ（もつ）、縁起（えんぎ）のよい年（とし）になるそうですよ。

こんげつ

## 今月のテーマ「へび がでてくるおはなし」

### 『さるのせんせいとへびのかんごふさん』

穂高（ほだか） 順也（じゅんや）／作（さく）、荒井（あらい） 良二（りょうじ）／絵（え）、本の番号（ほんばんごう）：あか・さ



この病院（びょういん）では、お医者（いしゃ）さんはさるの先生（せんせい）、かんごふさんはへびのかんごふさんです。へびのかんごふさんは、いろいろな道具（どうぐ）に変身（へんしん）できます。身長計（しんちょうけい）になったり注射器（ちゅうしやき）になったり胃カメラ（いカメラ）になったり。どんな病気（びょうき）でもびっくりする方法（ほうほう）で治（なお）してしまう、さるの先生（せんせい）とへびのかんごふさんです。

### 『ふしぎなボジャビの木（き） アフリカのむかしばなし』

ダイアン・ホフマイアー（さいわ）／再話（さいわ）、さくまゆみこ（やく）／訳（ほんばんごう）、本の番号（ほんばんごう）：みどり・ふ



腹（はら）ペコの動物（どうぶつ）たちがみつけた木（き）の実（み）。食べたい（た）！と思（おも）いますが、その木（き）にはへびが巻き付（まきつ）いていて実（み）を取（と）ることができません。するとへびは、「この木（き）の名前（なまえ）を言（い）え（え）ば木（き）から離（はな）れてあ（あ）げる」というのです。動物（どうぶつ）たちはライオン（らいおん）のところ（ところ）に行（い）って名前（なまえ）を聞（き）きますが、すぐ忘（わす）れてしま（しま）い…。

## 『シノダ! (1) チビ竜と魔法の実』

富安 陽子 / 作, 大庭 賢哉 / 絵, 本の番号: 913 と



人間のパパとキツネのママ。3人の子どもたちはそれぞれ不思議な力を持っています。もちろんこのことは秘密。

そんな信田家に小さな竜が迷いこみ、子どもたちにウロコが生えたり竜が大きくなったりと大騒ぎに…。このシリーズ11巻の中では、いろいろな場面でヘビが登場します。ハラハラしてページをめくる手が止まらないシリーズです。

保護者向け

## としょかんだより



「おねがい 一子どものまわりにおとなたちに」

「どうぞ、子どもたちにお話をしてあげてください。本を読んであげてください。幼い日には、耳からはいったお話は、それを語ってくれた人の声とぬくもり、子どもたち自身がそれを聞きながら思い浮かべたイメージと共に、一生その子の中にとどまります。お話は、おとなが子どもにおくることのできる、いちばんいのちの長い贈りものだと思います。」

(『愛蔵版おはなしのろうそく』シリーズより)

これは、私立の図書館である東京子ども図書館から刊行されている『愛蔵版おはなしのろうそく』シリーズの前書きの一部です。

「お話は、おとなが子どもにおくることのできる、いちばんいのちの長い贈りもの」。この「贈りもの」の中には、いろいろなものが含まれていますね。読んでやる大人からの愛情、一緒に過ごす時間、子ども自身が想像し発見した記憶、本の作り手からのメッセージ…。そして、何より素敵なこの「贈りもの」は、贈る側にも大きな喜びや思い出をくれるものだと思います。

週末だけでも5分だけでも、どうか子どもたちに本を読んであげてください。自分で本を読めるようになって、人から本を読んでもらう心地良さは変わらないものです。メディアに溢れた生活の中に「読書」への種を蒔いてあげてください。

(司書・村上)

